

資料編 「社会的養護経験者向けインタビュー」概要

大阪市社会的養育推進計画を推進していく際の施策決定に当たっては、当事者であるこども（社会的養護経験者を含む。）からの意見を聴取し、意見を踏まえたうえで施策判断し、実施をしていくことが大切である。

そこで、当事者であるこどもの意見について、「どうしてそう思う？」などの定性的な掘り下げまで可能なインタビュー形式にて、意見聴取を以下のとおり実施することとし、今後策定した計画を見直していく際には、意見聴取の結果を最大限反映することとする。

○社会的養護経験者向けインタビュー

i 大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部を通じてのインタビュー

（大阪府と合同実施）

対象：平成31年3月31日までに退所（自立）した施設、里親等出身者

（内訳）児童養護経験者5名、里親経験者1名、ファミリーホーム経験者1名
（男性5名、女性2名）

期間：令和元年11月2日（土）及び11月16日（土）

場所：大阪市立社会福祉センター会議室

内容：下記項目について、1対1形式でインタビューを実施。

- ・退所（自立）直後、及び現在困っていること
- ・自立支援に向けたサポート
- ・児童相談所について（入所までの流れ、入所後の支援、ワーカー増員など）
- ・「こどもの声を聞こう」という取組について
- ・里親家庭をふやそうという動きについて
- ・みんなが生活していた施設について（小規模化、地域分散化）

インタビュー結果

○退所（自立）直後、及び現在困っていること

- 20代前半男性 里親から3年前に自立（入所期間3年）

自立直後は職場での人間関係に困った。メンター制だったが、11歳年上の先輩の指示が不可解であったり、機嫌の浮き沈みが激しかったりと、ストレスを感じた。

今は、生活費。職場での勤務時間が不規則であり、生活も不規則にならざるを得ない。

- 30代後半女性 施設から19年前に自立（入所期間12年）

自立直後は病院利用に困った。入所中は受診券だったので、お金を払った経験がなく、受診した後お金を払わずに帰ってしまい、後から連絡を受け払うものだと知った。あと、電気代の支払い。方法が分からなかった。悪徳商法にも騙されかけた。

今は、親族の介護が心配。

- 20代後半男性 施設から8年前に自立（入所期間18年）

自立直後は一人暮らしなので孤独、孤立感があった。10人で生活していたところから、一部屋、同居人なしのアパートでの生活に、暗い気持ちになった。施設を出たからには一人で頑張らないと、仕事をしないと、と思っていた。独り立ちしたのに自分からは施設に相談できないものだと思いこんでいた。

国籍問題に振り回された。ビザの問題。更新手続きをしていなかった（入所中は施設が手続きをしてくれていた）。

自立後、帰化申請してはじめて自分の出生の経緯を知り、兄弟が居たことを知った。難民申請するため、出生国まで出生申請をしにいったが、結局、公的手続きが完了するのに5～6年かかった。

手続きをするなかで、一人じゃできないこともあると気付いた後は、色んな人に相談した。

- 20代前半男性 施設から2年前に自立（入所期間10年）

自立直後は家を借りる際の保証人がおらず、苦労した。親と縁が切れていたの。

今は、特に困っていることはない。

- 20代前半男性 ファミリーホームから2年前に自立（入所期間3年）

自立直後は家を借りる際の手順が分からなかった。公的手続きの情報がなくて大変だった。例えば住所の変更（住民票の移転）や、年金の手続きなど。

今は、生活全般の不安。一般的・社会的常識とのズレがないか不安がある。引越しをするときに保証人がいないこと（住居の確保が不安）。手続きが大変。

- 20代後半男性 施設から8年前に自立（入所期間5年）

自立直後は家族関係に困った。家（父、継母、姉）に戻ったが、2カ月後には会話がなくなった。自宅にいても食費と風呂代をバイトでまかっていた。父親がモラルハラスメント系。家から出ていく先を探していたが、家族のことを誰かに相談したいと思っていなかったの、それで困ったという感じではない。

今は、家族や親族は気にはなるが、それ以外は特にない。

- 20代前半女性 施設から2年前に自立（入所期間5年）

自立直後は金銭管理に困った。あと、奨学金の情報が少なく、集めるのに苦労した。

今は、生活全般の将来については多少不安だが、特に他に困ったことはない。

○自立支援に向けたサポート

- 20代前半男性 里親から3年前に自立（入所期間3年）

住居確保のサポートがもう少しあればよかった。
家を決めた後の家賃補助等の支援は受けたが、決めるまでのノウハウや情報の集め方が分からなかった。実際、家具付きの家に住んだが、後々家賃に上乗せになった。家を選ぶにあたっての注意点等が事前に聞けたらよかった。

- 30代後半女性 施設から19年前に自立（入所期間12年）

当時は仕組みとしてあまりなかったが、今のようなアフターケアの仕組みがあれば助かったと思う。

- 20代後半男性 施設から8年前に自立（入所期間18年）

生活に必要な各種手続きを教えてくれる窓口があればよかった。
あと、仕事に関する相談の窓口。

- 20代前半男性 施設から2年前に自立（入所期間10年）

住居確保サポートがあればよかった。
就職のときは、学校に出された求人票でエントリーしたが、一次選考で落ちてしまった。会社選びの情報がもう少しあればと思う。

- 20代前半男性 ファミリーホームから2年前に自立（入所期間3年）

生活や対人関係の相談窓口があればよかった。ただ、養育者との関係性により、養育者で大丈夫な場合と別の窓口があった方が良い場合があると思う。

経済的な援助は、自分が助かった経験がある。

あとは、住居確保の際に、未成年での契約に対してもう少しサポートがあれば助かる。自分の場合、親権停止中だったので、未成年後見人に保証人になってもらった。

- 20 代後半男性 施設から 8 年前に自立（入所期間 5 年）

住居、金銭面、就職など全般のサポート。自分にとっては、それをしてくれたのがアフターケア事業部だった。良くしてもらった方だと思っている。就職してもサポートを受けていたので、受けてきた以上のサポートは必要ない。

自分の場合、住居もお金も身分証すらない状態からの立て直しだったが、スムーズにできたのはこのサポートがあったから。

- 20 代前半女性 施設から 2 年前に自立（入所期間 5 年）

生活に関する相談窓口はほしい。光熱水費のこととか、家電が壊れた時の相談。体調をくずした時に気軽に連絡できるところはほしい。身近に気軽に連絡できる人のようなイメージ。

○児童相談所について（入所までの流れ、入所後の支援、ワーカー増員など）

- 20 代前半男性 里親から 3 年前に自立（入所期間 3 年）

里親委託先の決定については、母親と児童相談所のケースワーカーが話しているのは見たが、直接話はしなかったと思う。里親に委託されたとわかった時、生活が変わることに対する不安があった。

自分は当時高校生で、里親委託となっても転校する必要はなかったので、学校生活への不安はなかった。

- 20 代後半男性 施設から 8 年前に自立（入所期間 18 年）

児童相談所のケースワーカーの関わりは薄かった。実親が亡くなったときに施設に来たくらい。ケースワーカーと施設の先生とはやりとりがあったかもしれないが、自分に直接何かあったという記憶はない。

ケースワーカーに会えるなら会えた方が良かったと思う。自分は出生して間もなく施設に入所したので、親の名前すら分からなかった。国籍関係の手続きをする際に苦労した。

• 20 代前半男性 施設から 2 年前に自立（入所期間 10 年）

一時保護所にいたときケースワーカーと面談したが、ケースワーカーの予定がカツカツで、面談も合わせて 1 時間くらいだったと思うので、ケースワーカー増員は当然の流れだと思う。

一時保護期間が長期になって、半年経った時に他の一時保護所に移動することになって、行政は融通きかないなと思った。2 か所の一時保護所を経験したが、全然雰囲気違っていった。厳しい方の一時保護所については、ルールがガチガチで体育会系だった。具体的には、体育の時間といって延々ととにかく走らされた。入所人数が多く、仕方ないと思うし、自分は別に良かったけど、それが嫌に思うことも多かったと思う。

• 20 代前半男性 ファミリーホームから 2 年前に自立（入所期間 3 年）

ケースワーカーがフレンドリーで、自分としては好きだった。色々親身に話を聞いてくれた。面会頻度は多くなく、2 カ月に一度程度。

• 20 代後半男性 施設から 8 年前に自立（入所期間 5 年）

ケースワーカーへの相談は親から。ケースワーカーが状況をどう見ていたのか、どこまで把握していたのかは、親と話をしていたので自分は知らなかった。（自分が小 6～中 1 くらいの期間）

施設入所になった経緯は親からもケースワーカーからも知らされた覚えがない。ただ、入所が決まって毎日ご飯が食べられると思って安心したのを覚えている。

担当は年に一回変わってたと思う。顔や名前を憶えていない人も多分いる。面談も年 1 回程度。進学とかのタイミングの時は、もっと多かったと思うけど…

ケースワーカーは色々聞いてくれていたと思うが、助けてくれたという実感はあまりない。面談を約束していたけど来なかった、というようなことはなかったと思うが。

- ・20代前半女性 施設から2年前に自立（入所期間5年）

一時保護所の前は、ケースワーカーは親と話していたので、家の状態は学校の先生に伝えていた。

一時保護所、施設に入ってからケースワーカーと直接話をするようになった。月1回来てくれる。進路など相談していた。

一時保護所ときは、これからどうするかとか、施設に入ることについて話をした。施設入所後は進路など相談していた。

入所当初のケースワーカーは全然約束時間に来ないのでどうせ話しても・・・だったが、担当が変わり、新しいケースワーカーは、会えないときは直接自分に電話を入れてくれた。

○「こどもの声を聞こう」という取組について

- ・20代後半男性 施設から8年前に自立（入所期間18年）

アドボケイター制度は賛成。弁護士などその道の専門家が望ましい。出自を知りたいときに代弁してくれる人がいればよかったと思うので。

アドボケイターは自分と近い人の方が良いかもしれないが、第三者の方が全体を見れていいのかもしれない。

- ・20代前半男性 施設から2年前に自立（入所期間10年）

必要と言えれば必要だと思う。必要性は分かるが、こどもに直接聞いた場合、エゴやわがままなども出るだろうから、公平性が図れるのか不安を感じる。人によって解釈も異なるだろうし。

- ・20代前半男性 ファミリーホームから2年前に自立（入所期間3年）

良い事だ。虐待防止法の強化もうれしい。ありがたい。疑わしいケースがあれば、大人は対応して欲しい。

- 20 代後半男性 施設から 8 年前に自立（入所期間 5 年）

誰もが経験することと、社会的養護特有の課題が混在する気がする。自分も不安や不満はあったが、施設でのことがすべてでもないし、そのせいという訳でもないと思うので。

小さい時から施設に入所している子と、家庭経験がある子では感じ方が違うと思う。施設で上手くいかなかった子は、なんでも施設のせいにしているときもあると感じる。例えば、門限が早いとか、一般家庭でもそういう家もあると思うが。

- 20 代前半女性 施設から 2 年前に自立（入所期間 5 年）

これまで聞いていないのがおかしい、聞かれたことがなかったのが意見を聞いてくれて改善につなげてもらえたらうれしい。

○里親家庭を増やそうという動きについて

- 20 代前半男性 里親から 3 年前に自立（入所期間 3 年）

施設より里親の方が良い。生活のリズムができるし、家庭環境で育つことが大事と思う。里親宅には色んな方が来るので、外部の人との交流が生まれる。「家庭」の様子を頭で理解しているのと、実際に体験しているのとは違うと思う。

- 30 代後半女性 施設から 19 年前に自立（入所期間 12 年）

里親よりも施設、むしろ大きな施設がいいと思う。

社会は縦のつながりだが、こどもは横のつながりが大事。もし小規模で周囲のこどもと合わなければ、逃げ場なくなる。里親も合わなかったときのリスクがあるので、私は里親は選ばないと思う。

施設に入所している間も、週末里親に出る子がいたが、たいがい甘やかされて帰ってきて、そのあと職員が困っていた。

- 20代後半男性 施設から8年前に自立（入所期間18年）

週末里親に行っている子もいたが、人間関係ができてないと、信頼関係が築けなかったときにつらいのではないかな。

施設にいたときは一般家庭にあこがれを持ったが、今振り返ってみると、施設では行事やサポートが手厚かったので、自分には施設でよかったと思う。

- 20代前半男性 施設から2年前に自立（入所期間10年）

集団生活では協調性が養われ、同じ釜の飯ではないが、折り合いの付け方などを学べた。

ただ、小さい子には里親の方がいいとも感じるので、低学年は里親、高学年は施設など、どちらがいいとか決めたりひとくくりにせず、その子にあったところを考えるべきだと思う。

- 20代前半男性 ファミリーホームから2年前に自立（入所期間3年）

施設の子は暮らしづらそう、大人数、ルールの多さ、バイトや携帯とかも制限がある。

もう一度選ぶとしても、里親（ファミリーホーム）を選びたい。

- 20代後半男性 施設から8年前に自立（入所期間5年）

「自分の事は自分で」の感覚は里親の方があると思う。施設は自立したときにギャップが激しい。

ただ、里親の場合、どのような人が里親になるかというところで不安はある。管理する数が増えることも不安。

宗派や思想の関係で、里親と施設とでは、施設の方が一定の安心さはあるのでは。

- 20代前半女性 施設から2年前に自立（入所期間5年）

身近に里親をしたいという話を知っているので、里親さんがもっと増えたらいいのと思う。

施設に行ったこと自体に後悔はない。

○みんなが生活していた施設について（小規模化、地域分散化）

- 20代前半男性 里親から3年前に自立（入所期間3年）

一軒家（小規模施設や里親、ファミリーホーム）の方が、別の家庭を知ることができてよい。

- 30代後半女性 施設から19年前に自立（入所期間12年）

国の方針はわかるが、本当に小規模施設でこどもを支援するとなると、施設の職員がしんどいと思う。しんどい状況でこどもを見ると、それが支援に現れてくる。

- 20代後半男性 施設から8年前に自立（入所期間18年）

大人数で集団で生活することでコミュニケーションなどは必然的に学べるし、見てくれる先生も複数いるところが手厚いので、自分にはとてもよかった。小さくなると先生がちゃんと見きれんだろうか不安に思う。

個人的には、集団（施設）の方で良かったと思う。

- 20代前半男性 施設から2年前に自立（入所期間10年）

小規模化や地域分散化は有りとは思う。

地域にあるから、ひとつの家庭として扱ってくれる。自分は分園だったので、挨拶もするし周りの家と近所づきあいもあった。職員もところどころ変わらない。

本園は普通の家ではない。施設の運動会もあるが、その時は本園の子たちとの壁を感じることはあった。

分園では、高校になると自立の勉強のために料理を作ったり、職員に頼まれて買い物に行ったりした。

リービングケアで退所前の一人暮らしをしたが、それはよかった。

- 20代前半男性 ファミリーホームから2年前に自立（入所期間3年）

良い事だ。

大舎とユニットを見かけるが、ユニットの方が静かでこどももおだやか。（4～6人がベストかな）

- 20代後半男性 施設から8年前に自立（入所期間5年）

小規模化され、家庭的になるなら、里親よりも管理体制がしっかりしていて、職員の交替もあることを考えれば、やり直しがきき自浄作用があるので良いと思う。里親よりも密室化されないのが良いのでは。

こどもがたくさんいる環境では、大人数のやり方になる。掃除なども施設で学べるけども、家庭で役に立つかは疑問。

- 20代前半女性 施設から2年前に自立（入所期間5年）

児童福祉施設に限らず、特別養護老人ホームもユニットとか個別支援になっていて、先生としても見やすいと思うし、良いことだと思う。本館の時は大人数を一人で見ないといけないという状況の中、ちゃんと見られているか疑問だった。

ユニットでは専属の先生3人が年齢に応じた対応をしてくれていた感覚はある。

小規模の方が、こどもが意見を言いやすい環境な気がする。

地域小規模児童養護施設は、“家庭環境で育っている”という実感があつた。

ii 里親・ファミリーホームを通じてのインタビュー

対象：平成31年3月31日までに退所（自立）した里親・ファミリーホーム
（以下、「FH」という。）出身者

（内訳）里親経験者4名、FH経験者5名
（男性3名、女性6名）

期間：令和元年11月5日（火）～11月15日（金）

場所：各出身里親宅・FH

内容：iに同じ

インタビュー結果

○退所（自立）直後、及び現在困っていること

- ・40代前半女性 里親から23年前に自立（入所期間18年：現在里親）

自立直後も、今も、特に困ったことはない。

- ・20代前半女性 里親から4年前に自立（入所期間6年：施設経験1年あり）

自立直後は特に困ったことはなかったが、今は、生活全般の不安や将来の不安がある。あとは、生活費等の経済的なことや、心身の健康。現在学生だが、就職のことで困っている。

- ・20代後半女性 里親から6年前に自立（入所期間3年半）

自立直後は金銭的な問題、生活費の不足など生活全般に不安があった。また、自立できたことは嬉しかったが、すべてひとりでやる食事や家事等が面倒だった。

今は、引き続き生活全般の不安や将来の不安があるが、何かあった時に帰るところがないので、思い切ったことが出来ない。

生活費や経済的なこと。先行きが見えない。

転職したいと思ったこともあるが、帰るところ（一時養ってくれるところ）がないので、あきらめた。

- 20代前半女性 里親から8年前に自立（入所期間5年：施設経験あり）

自立直後は一人暮らしをするのが大変だった。住民票登録や電気等の契約手続き、保証人探しが大変だった。結局OKにしてもらったが、里親は保証人にはなれないと言われたり、契約時に水道代はかからないと聞いていたのに、転居時にすべて支払えと言われたり。仕事の業務も想定外のことがあった。

今は、子育てが大変。ママ友の年齢が少し上でなじめない。新しい輪の中に入りづらい。また、子育て後の就職も不安。

- 20代後半男性 FHから8年前に自立（入所期間7年）

自立直後は生活費の不足に困った。

今は、住宅ローンの支払いに困っている。

- 20代前半女性 FHから2年前に自立（入所期間5年：現在施設職員）

自立直後、一人暮らしを始める時の住民票の手続きが大変だった。

今は、特に困ったことはない。

- 20代前半女性 FHから3年前に自立（入所期間7年）

自立直後は、特に困ったことはない。

今は、職場の人間関係に困っている。

- 20代前半男性 FHから4年前に自立（入所期間3年）

自立直後は、特に困ったことはなかった。

今は、現在の仕事（今後のキャリアアップ）が不安。

- 20代後半男性 FHから7年前に自立（入所期間14年）

自立直後はとにかく金、生活費の不足で苦しかった。

今は、特に困ったことは無い。

○自立支援に向けたサポート

- ・40代前半女性 里親から23年前に自立（入所期間18年：現在里親）

受けてきた以上のサポートは特に必要ないと思う。

- ・20代前半女性 里親から4年前に自立（入所期間6年：施設経験1年あり）

受けてきた以上のサポートは必要ない。
里親に教わった事（料理など）はとても役に立っている。

- ・20代後半女性 里親から6年前に自立（入所期間3年半）

援助が受けられるのであれば、全てほしい。特に、生活に関する相談窓口。

就職や進学の経済的援助などは、自分の時にあれば利用したかった。（※現在は同様のものあり・・・と説明）当時は情報が入っていない、知らなかった。

- ・20代前半女性 里親から8年前に自立（入所期間5年：施設経験あり）

自立に当たっての金銭的な支援があればよかった。冷蔵庫・テーブル・台所用品など揃えたら・・・アルバイトのお金はあっという間に無くなった。

- ・20代後半男性 FHから8年前に自立（入所期間7年）

進学に関する経済的な支援。当時は必要とは思わなかったし、仕組みがあっても進学したかも分からないが、選択肢としてあれば良かった。

- ・20代前半女性 FHから2年前に自立（入所期間5年：現在施設職員）

生活に関する相談窓口があればよかった。

- 20代前半女性 FHから3年前に自立（入所期間7年）

受けてきた以上のサポートは必要ない。

- 20代前半男性 FHから4年前に自立（入所期間3年）

自立に必要なサポートはほとんど里親さんにしてもらった。
1人暮らしの居所にお米を送ってもらったりもした。

- 20代後半男性 FHから7年前に自立（入所期間14年）

特にサポートは必要ない。
毎日、ごはんが食べられて、寝るところがある事がありがたかった。

○児童相談所について（入所までの流れ、入所後の支援、ワーカー増員など）

- 40代前半女性 里親から23年前に自立（入所期間18年：現在里親）

里子の成長には、こども相談センターと里親での連携が必要だと思う。こども相談センターのケースワーカー間の資質の差があるため、そこも踏まえてケースワーカーの増員が必要。

なかなかこども相談センターのケースワーカーに相談したくても、日程調整等で時間がかかってしまい、里子の行動についてなどすぐに相談したいことが相談できない。ここ2、3年は里親支援専門相談員に相談できるようになったため、少し楽になった。

- 20代前半女性 里親から4年前に自立（入所期間6年：施設経験1年あり）

入所までの流れはスムーズだった。関わってくれたケースワーカーは30代の女性、話しやすく相談にも乗ってくれた。適度の会いにきてくれ、放っておかれた印象はない。

ケースワーカーの増加については、一人ひとりをより良く見ることが出来るので良いことだと思う。

- 20代後半女性 里親から6年前に自立（入所期間3年半）

ケースワーカー増員はいいことだと思う。一時保護委託先の先生が嫌いだった。プライバシーがないことも嫌だった。

高校受験が迫っていたので、中学、高校とそのまま上がれる学校に通っていたので、そのまま高校に通える施設を希望した。

ケースワーカーとは、数回面談はあったが、印象に残るような密な関係はなかった。

- 20代前半女性 里親から8年前に自立（入所期間5年：施設経験あり）

ケースワーカーは増員するべきと思う。一時保護所は人数の多さに驚いた。

ケースワーカーの訪問については、よく来ていた印象があるが、頻繁ではなかった。

里親宅には、里親担当ケースワーカーが半年に1度ほど訪問にきていた。退所に向けてこども相談センターに行ったりもした。

- 20代後半男性 FHから8年前に自立（入所期間7年）

3歳違いの兄が里親を選んだ。施設のイメージが良くなかった。2カ月か1カ月に一度、児童相談所でゲームなど交流していた。相手は心理士（退所のときも相談した）。ケースワーカーは誰なのか知らない。

ケースワーカーは増える方が良いと思う。新人を入れないとベテランにならない。

- 20代前半女性 FHから2年前に自立（入所期間5年：現在施設職員）

ケースワーカーともそれほど会っていないので、印象に残っていない。基本的に特に思い当たることはない。
ケースワーカー増加については、いいことだと思う。

- 20代前半女性 FHから3年前に自立（入所期間7年）

望みが叶ってこのファミリーホームに来ることができた。
ケースワーカーは親身になって話を聞いてくれた。面談は2～3ヶ月に1回（FH入所後も同じ）
ケースワーカー増加について良いと思うが、人数確保できるのかなという不安がある。

- 20代前半男性 FHから4年前に自立（入所期間3年）

入所までのプロセスに関しては、自分は恵まれていたと思う。父が体調を崩し、死亡したとき、すぐに里親宅に行くことができた。

- 20代後半男性 FHから7年前に自立（入所期間14年）

一時保護所については記憶にない。ケースワーカーが来てくれたと思うが、自分が無断外出とかしていて、良く覚えていない。

○「こどもの声を聞こう」という取組について

- 40代前半女性 里親から23年前に自立（入所期間18年：現在里親）

「こどもの声をきく」ということは大切なことだが、こどもの声をきくだけではなく、里親がどのように考えているかも聞いてほしい。

- 20代前半女性 里親から4年前に自立（入所期間6年：施設経験1年あり）

聞かないよりは聞く方が、参考になる、形になるかは別として、良いと思う。

- 20代後半女性 里親から6年前に自立（入所期間3年半）

良いことだと思うが、施設等にいても子ども達は将来の不安を抱えていて、目の前の事でいっぱいなので、大きな視点で意見を言うのは難しいと思う。

聞かないということも駄目だと思うが、福祉についてという切り口（質問）は答えに困る。

- 20代前半女性 里親から8年前に自立（入所期間5年：施設経験あり）

良いことだと思うが、なかなかはっきり言えない子も多いのでどうなのか。

- 20代後半男性 FHから8年前に自立（入所期間7年）

意見を言えるかどうかは個人差があると思う。自分の場合意見が言えないということはなかった。言えない子がどう思うか。

取組はあった方が良いと思うが、優先順位がある。こどもの声を聴くには、代弁者を増やすより、ケースワーカーを増やす方が先。

- 20代前半女性 FHから2年前に自立（入所期間5年：現在施設職員）

特に意見はない。

意見箱等は無かったが、特に意見が言えず不自由な事はなかった。

- 20代前半女性 FHから3年前に自立（入所期間7年）

良い取り組みだと思う。自分は意見を言うのに萎縮したりはなかったが。

- 20代前半男性 FHから4年前に自立（入所期間3年）

里子の子達は、心がふさぎ込んでしまって、自分の考えを人に言うのは難しいので、時間をかけてしっかり聞いてあげてほしい。

自分は父が死亡するまで普通の生活だったけど、小さいときから見放されていた子は、心に色々と抱えているとおもうので、時間をかけてしっかり聞いてあげてほしい。

- 20代後半男性 FHから7年前に自立（入所期間14年）

良いのではないかな。

○里親家庭を増やそうという動きについて

- 40代前半女性 里親から23年前に自立（入所期間18年：現在里親）

必要であると思うが、里親自体が社会であまり受け入れられていないと感じることがあり、里親の孤独感が強い。困っていてもこども相談センターにすぐに相談できない。担当のワーカーと日程調整をして、2週間程かかってしまうため、担当ワーカー以外でも一旦話を聞いてほしいと思う。

- 20代前半女性 里親から4年前に自立（入所期間6年：施設経験1年あり）

里親家庭の方が家庭的で良いと思うが、自分の子でないこどもを育てる里親は大変だと思う。

施設との交流はあったが（交流事業）、自分は施設の子には話掛けなかった。

- 20代後半女性 里親から6年前に自立（入所期間3年半）

悪いことではないが、こどもに合わせてほしい。
こどもの中には里親家庭よりも施設の方が良い、合っているという子もいるので、一概に里親家庭の数を増やすべきとも言えない。
家庭を知ることの良いが、こども一人ひとりの環境に合わせるべき。

- 20代前半女性 里親から8年前に自立（入所期間5年：施設経験あり）

良いことだと思ったが、その分里親さんへの支援が分散され里親さんがしんどくなったら意味がない。
寄付など、施設には人の支援も物の支援もたくさんあったが、里親にはなかなかない。

- 20代後半男性 FHから8年前に自立（入所期間7年）

良いと思う。ただ、増やし方に気を付けないと、やりたいだけの軽い気持ちで変な里親も出てくるかもしれない。適正な人に里親になってほしい。ベテランをメンターにして住みながらとか、力を付けてから。

- 20代前半女性 FHから2年前に自立（入所期間5年：現在施設職員）

すごく良い事だと思う。
現在児童福祉施設職員をやっているが、里親が増えるのは良いことだと思う。

- 20代前半女性 FHから3年前に自立（入所期間7年）

良い事だと思う。
施設は職員とこども達という関係でなかなか相談しづらいと聞かすが里親だと親に相談するというような関係なので相談しやすい。

- 20代前半男性 FHから4年前に自立（入所期間3年）

良い事だと思う。ただ、里親制度を知っている人が少ないのでは、もっと里親子のことを知ってもらえたら増えると思う。知ってもらい取り組みをしてほしい。SNSの活用など・・・。

- 20代後半男性 FHから7年前に自立（入所期間14年）

良いと思う。
施設よりも里親がいい。自由だと思うから。
普通の家庭と変わらない。「お母さん」と呼んでいるし。ここで幸せだったと思う。

○みんなが生活していた施設について（小規模化、地域分散化）

- 40代前半女性 里親から23年前に自立（入所期間18年：現在里親）

小規模化、地域分散化していくことは良いことだと思う。家庭に近い環境で生活していないと、日常の常識的なことを知らないことがある。大きな施設では食事が出されて、カレーという料理名を知っているけど具材の名前が分からない等を聞いたことがある。

- 20代前半女性 里親から4年前に自立（入所期間6年：施設経験1年あり）

小学2年（秋）から1年間、児童養護施設に入所していた。
4人部屋、食堂、プレイルーム等があり、里親家庭と比較して、人数差に不便なく、変わりないと感じた。

- 20代後半女性 里親から6年前に自立（入所期間3年半）

こどもの環境に合わせてほしい。入所するまでのこどもの生活環境があり、そこから大きく変わった環境（施設や里親）に入ると、生活（精神的）が苦しくなるが、この経験も将来には無駄にならないと思う。

- 20代前半女性 里親から8年前に自立（入所期間5年：施設経験あり）

大勢より小さい集団の方が、職員の目が行き届く。
施設にいたときには、目が届かないと思う事がよくあった。

- 20代後半男性 FHから8年前に自立（入所期間7年）

長期間施設にいたので、この取り組みは大事。
1～2カ月なら、集団生活も良い体験となると思うけれど。

- 20代前半女性 FHから2年前に自立（入所期間5年：現在施設職員）

前向きで良いと思う。
（職員の声として）何か課題は特にはない。小規模にしてこどもに接することが多くなることは良い事だと思う。

- 20代前半女性 FHから3年前に自立（入所期間7年）

小規模化について、良い事だと思う。
兄弟で入所できる確率は上がるのだろうか？ 里親委託で兄弟バラバラになるくらいならば、小規模施設の方が多い（実際3人兄弟バラバラで里親委託の経験有）。
地域分散化について、良い事だと思う。

- 20代前半男性 FHから4年前に自立（入所期間3年）

施設経験はないが、やっぱり大規模より、小規模の家庭的な生活環境の方が良い。施設の小規模化は良いことだと思う。

iii 母子生活支援施設を通じたインタビュー

対象：平成 31 年 3 月 31 日までに退所した母子生活支援施設出身のこども

（内訳）10 名（男性 4 名、女性 6 名）（各施設 2～3 名）

日時：令和元年 11 月 25 日（月）～30 日（土）

場所：母子生活支援施設 4 施設

内容：下記項目について、1 対 1 形式でインタビューを実施。

- ・退所直後、及び現在困っていること
- ・自立支援に向けたサポート
- ・母子生活支援施設生活上における意見表明や相談について

インタビュー結果

○退所直後、及び現在困っていること

- ・10 代後半女性 施設から 8 年前に退所（入所期間 3 年）

退所直後も、今も困っていることは特にない。

- ・20 代前半女性 施設から 5 年前に退所（入所期間 8 年）

退所直後、特に困ったことはない。退所後施設の近所に住んでいた
ので、何かあれば施設職員にすぐ相談できた。
今も特に困ったことはない。

- ・20 代前半男性 母子生活支援施設から 7 年前に退所して里親委託
（入所期間通算 13 年）

里親委託になった当初は、相談する人がいなかった。孤独、孤立感
（里親宅で里子は自分だけ）。施設に相談にもなかなか行けなかつた。
今は、心身（メンタル）の健康、職場の人間関係に困っている。

- 20 代後半女性 施設から 10 年前に退所（入所期間 6 年）

退所直後は特に困ったことはなかった。
今は、生活全般の不安や将来の不安がある。

- 20 代前半男性 施設から 11 年前に退所（入所期間 6 年）

退所直後に住んだところには電話がなかったので、母親との連絡手段がなく困った。家に入れない事は何度もあり、鍵を親だけではなく自分も持つ必要性を感じた（今までは鍵を施設に預けていた）。
今は、いつ実家を出るか、タイミングに悩んでいる。

- 10 代後半男性 施設から 5 年前に退所（入所期間 6 年）

退所直後にあまり困りごとにはなかったが、しいて言えば、同じ学校に通ったけれど通学路が変わって一人通学するのがさみしかったくらい。
今は、心身の健康（夜更かししがち）。学校の費用。専門学校での人間関係に困っている。

- 10 代後半女性 施設から 10 年前に退所（入所期間 9 年）

退所直後は相談する人が少なかった。あと、病院を探すのが大変なこと。
今は、離れている母と兄弟の生活が心配。

- 10 代後半女性 施設から 4 年前に退所（入所期間 9 年）

退所直後は新しい学校になじめるかが不安だった。
今は、家族。バイトで忙しいが母に早く帰ってきてと言われる（母はひとりがいやなので）。あと、生活費等経済的なことに困っている。

- 20代前半男性 施設から8年前に退所（入所期間3年）

退所直後は特にない（退所後、施設の近くに住んでいて学校を変
わらなかったから）。あるとしたら・・・困ったとき、退所してすぐ
なのに施設に来て相談していいのか、自立できていないと思われる
のではないかと思います、相談できなかった。

今は、生活全般の不安や将来の不安がある。母と妹と住んでい
るが、家計の半分以上を私が出している。家賃の支払い。

- 10代後半女性 施設から10年前に退所（入所期間9年）

退所直後は孤独、孤立感、相談する人が減ったこと。
今は、食事の用意。孤立や孤独は引き続き不安。

○自立支援に向けたサポート

- 10代後半女性 施設から8年前に退所（入所期間3年）

生活に関する、仕事に関する、対人関係の相談窓口。あと、食事等
の生活面のサポートがあれば良いと思う。

- 20代前半女性 施設から5年前に退所（入所期間8年）

受けてきた以上のサポートは必要ない。

- 20代前半男性 母子生活支援施設から7年前に退所して里親委託
（入所期間通算13年）

対人関係の相談窓口。施設職員等からの精神的サポートはもう少し
あればよかった。

- 20代後半女性 施設から10年前に退所（入所期間6年）

受けてきた以上のサポートは、必要ない。

- 20代前半男性 施設から11年前に退所（入所期間6年）

受けてきた以上のサポートは必要ない。
施設内学童での経験がとても良かった。

- 10代後半男性 施設から5年前に退所（入所期間6年）

生活に関する相談窓口。仕事に関する相談窓口（お金に困っている人もいたので）。対人関係。就職や進学のための経済的援助。
施設職員からの精神的サポート（施設から出ると、人と挨拶するとか機会が減って、出来なくなる。当たり前のことができなくなる）。

- 10代後半女性 施設から10年前に退所（入所期間9年）

生活に関する相談窓口（手続き書類の書き方）。就職や進学のための経済的援助。精神的サポートが必要だと思う。

- 10代後半女性 施設から4年前に退所（入所期間9年）

生活に関する相談窓口と、就職や進学のための経済的援助はもう少し必要だと思う。

- 20代前半男性 施設から8年前に退所（入所期間3年）

生活に関する相談窓口。仕事に関する相談窓口。施設職員からの精神的サポートはもう少し必要だと思う。

- 10代後半女性 施設から10年前に退所（入所期間9年）

生活に関する相談窓口、経済的援助、精神的サポートが必要だと思う。

○母子生活支援施設生活上における意見表明や相談について

- 10代後半女性 施設から8年前に退所（入所期間3年）

友人が同じ施設内にいるので、いつでも遊べ、朝も登校前に集まって遊んでいたのが気心の知れた関係があった。

クリスマスの時に、一家庭にひとつケーキをくれ、プレゼントももらえた。プレゼントは予算金額内で、自分で選ばせてくれた。

心理相談があり、年齢関係なく予約すれば相談できた。箱庭作りなども楽しかった。

- 20代前半女性 施設から5年前に退所（入所期間8年）

母とあまり一緒にいたくなかったので、施設内に学童スペースなどがあったので良かった。

お話の部屋で、心理相談ができたので良かった（1対1）

小・中学校と不登校だったので、色々と相談できて良かった。高校からは通えるようになった。

心理相談は予約制で、心理員は3人いた。→相性の合う心理員に合わせてくれた。

学習指導でいろいろと相談できた（勉強、受験対策、進路指導）

- 20代前半男性 母子生活支援施設から7年前に退所して里親委託（入所期間通算13年）

施設職員とは気軽に話せていたし、今でも話せる。

ただ、施設退所直後は、何かあった時にいつも施設と連絡が取れる環境・体制にしてほしかった。退所直後はそうではなかった。

- 20 代後半女性 施設から 10 年前に退所（入所期間 6 年）

学童でいろいろと相談できた。他の施設との合同での旅行で友人ができたのは良かった。

- 20 代前半男性 施設から 11 年前に退所（入所期間 6 年）

学童で色んな遊び（ゲームとかではなく、トランプなど）が自由にできた。土曜日も午前中あった、近くの公園に施設職員が連れて行ってくれた。その時に聞きたいこと、相談事などができた。

日帰り旅行や宿泊旅行、施設職員と合同キャンプなども、コミュニケーションの取り方を知れてよかった。

- 10 代後半男性 施設から 5 年前に退所（入所期間 6 年）

小学生だったので、気軽に施設の職員さんや周りの人と接することが出来たこと。周りの人は同じ境遇なので、悩みが分かりあえる。施設の友達はみんな下の名前と呼ぶ（呼び捨てで呼べるくらい気兼ねない関係になるのは施設の友達だけ）

ただ、前に窃盗事件があってから、他の人の号室に入れないことになっていたので、友達と部屋の中で遊べなかった。

- 10 代後半女性 施設から 10 年前に退所（入所期間 9 年）

学童での行事は相談相手（施設内での友人）が増えてよかった。何かあったらとしたら戻って相談できる安心感が今でもある。

ただ、集団登校は強制だったので嫌だった。

• 10代後半女性 施設から4年前に退所（入所期間9年）

行事（夏のフェスタ、旅行）、茶道教室などで、仲良くなった友人となんでも相談しあえた。

お母さん同士のいじめ（当番制の廊下掃除などやらずに隣に回す、ごみを家の前に置くなど）があったのは嫌だった。私は受けていないがあとから聞くと派閥があって、集まってひそひそしている態度。お母さんはそういうのに興味のない人だった。

施設職員のひいきが嫌だった。気に入った子と、そうでない子は怒り方が違う。

• 20代前半男性 施設から8年前に退所（入所期間3年）

先生たちが仲良くしてくれ、相談しやすい関係だった。

もともと父のDVで入居したので、入所後は安心して暮らせた。

学童イベント（お誕生会、遊園地等行事）、施設イベント（宿泊、キャンプ）、ロードレース（ボランティアとして参加、子ども達と遊べて楽しかった）など行事がたくさんあり、孤立せずに済んだ。

ただ、どこに行くにも外出届を出さなければならず、野球チームへの加入も強制参加だったので、それは嫌だった。

• 10代後半女性 施設から10年前に退所（入所期間9年）

母が怪我をしてもすぐに職員が対応してくれ、安心できた。

友人との交流（年上の人とも仲良くできた）でなんでも言える関係になっていた。

門限が厳しいのは苦痛だったがなかなか言えなかった。

生活アンケート 調査結果

1. 調査の目的

意見箱を設置していない里親・ファミリーホームに入所している児童が、困ったときに困ったことをどのように表明しているのか、現状に対しどう感じているかを把握するため、里親・ファミリーホームにおいて生活している中学校を卒業された方に対し、下記のとおり生活アンケートを実施

2. 調査対象

令和元年 11 月 1 日現在、里親・ファミリーホームにおいて生活している中学校を卒業された方 かつ、大阪市（南部）こども相談センターが担当している方

（内訳）里親 28名、ファミリーホーム 27名 計 55 名に送付

回収数	回収率
35 名	63.6%

3. 調査期間

令和元年 10 月 24 日（木）～11 月 15 日（金）

4. 質問内容

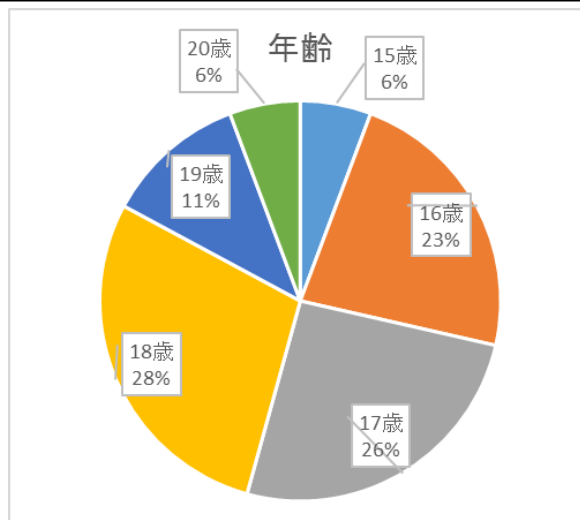
別紙「生活アンケート」項目のとおり

5. 調査結果

I あなたについて

① あなたの年齢をお答えください。

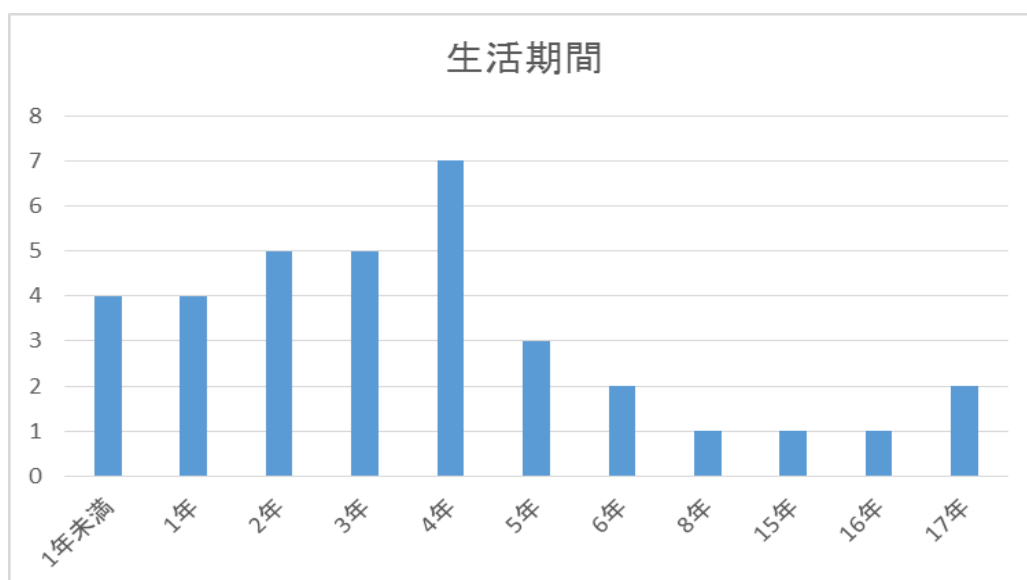
「18 歳」が最も多く、
10 名（28.6%）であった。
次いで「17 歳」25.7%、
「16 歳」22.9%であった。
平均年齢は、17.3 歳で
あった。



① 年齢(歳)	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	計
人数	2	8	9	10	4	2	35
割合	5.7%	22.9%	25.7%	28.6%	11.4%	5.7%	100.0%

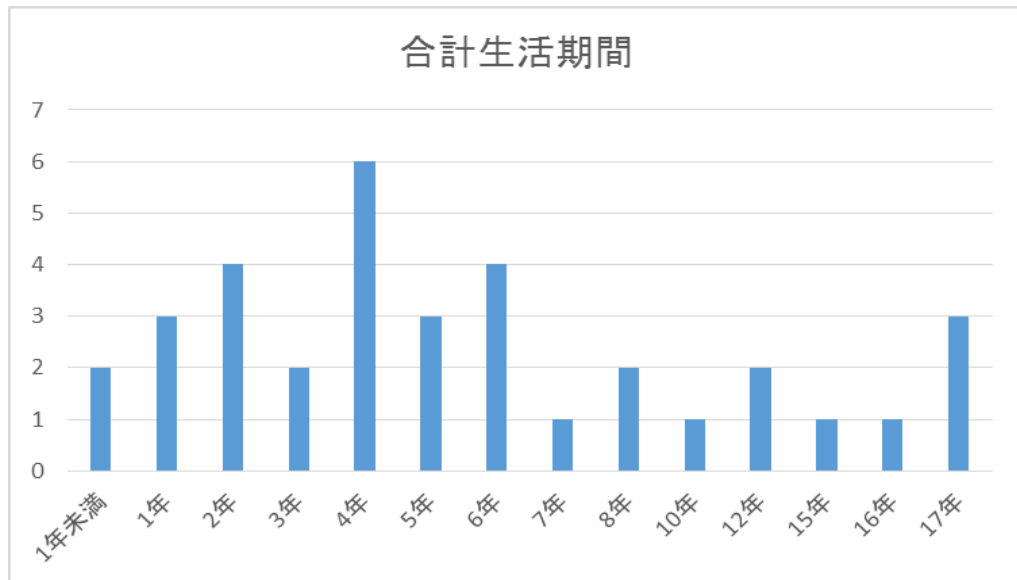
② 里親・ファミリーホームでの生活期間

- ・現在生活している里親・ファミリーホームでの生活期間
4 年が 7 人と最も多く、平均は 4.5 年であった。



・ほかの施設との合計生活期間

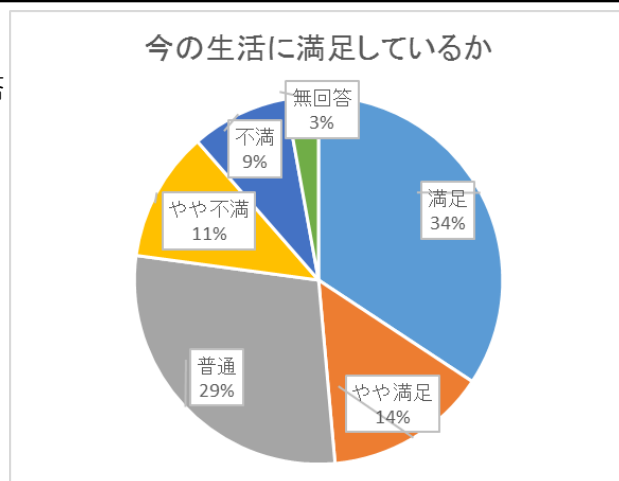
4 年が 6 人と最も多く、平均は 6.3 年であった。



Ⅱ 現在の生活について

③ 今の生活に満足していますか。

「満足」と「やや満足」を合わせると、ほぼ 5 割の回答者となり、「普通」が 3 割、「やや不満」「不満」が 2 割ほどであった。

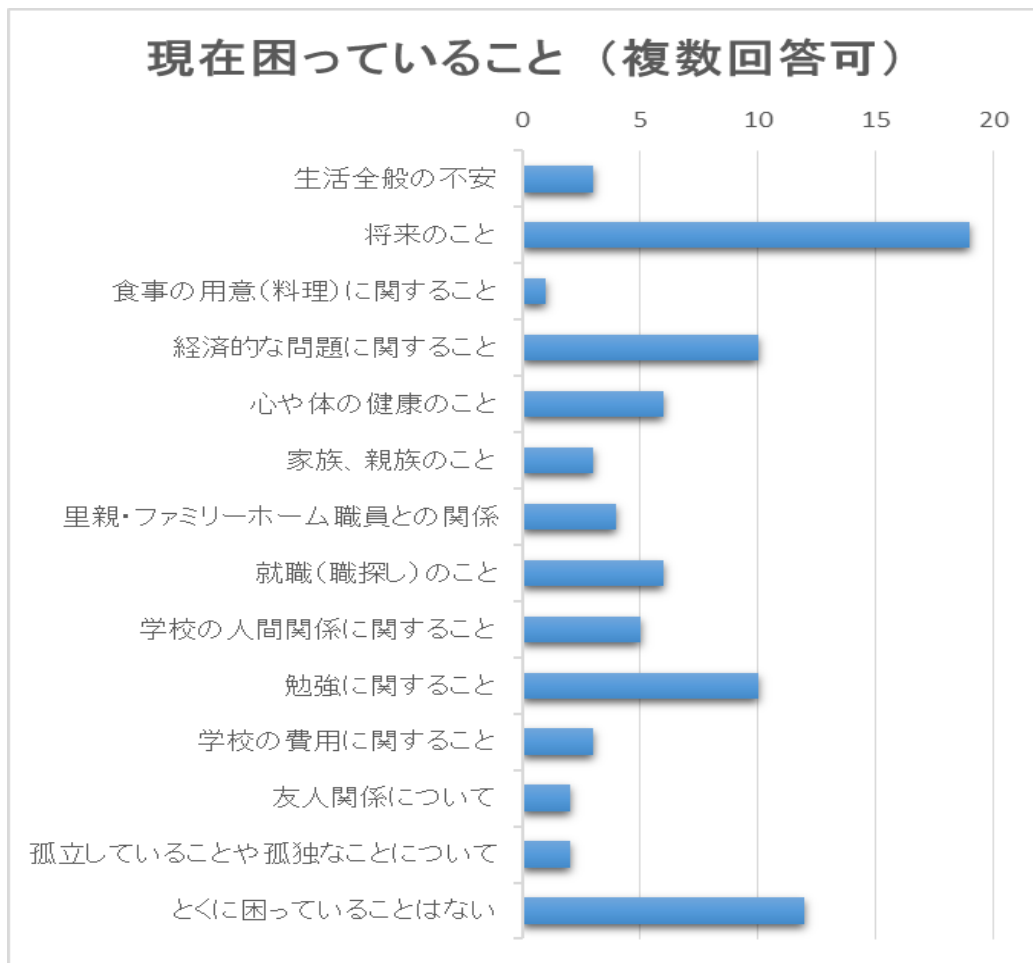


③ 満足度	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	計
人数	12	5	10	4	3	1	35
割合	34.3%	14.3%	28.6%	11.4%	8.6%	2.9%	100.0%

④ 現在困っていることについてお答えください。

最も多かったのは「将来のこと」19名（22.1%）で、次いで「経済的な問題に関すること」と、「勉強に関すること」がともに10名（11.6%）であった。

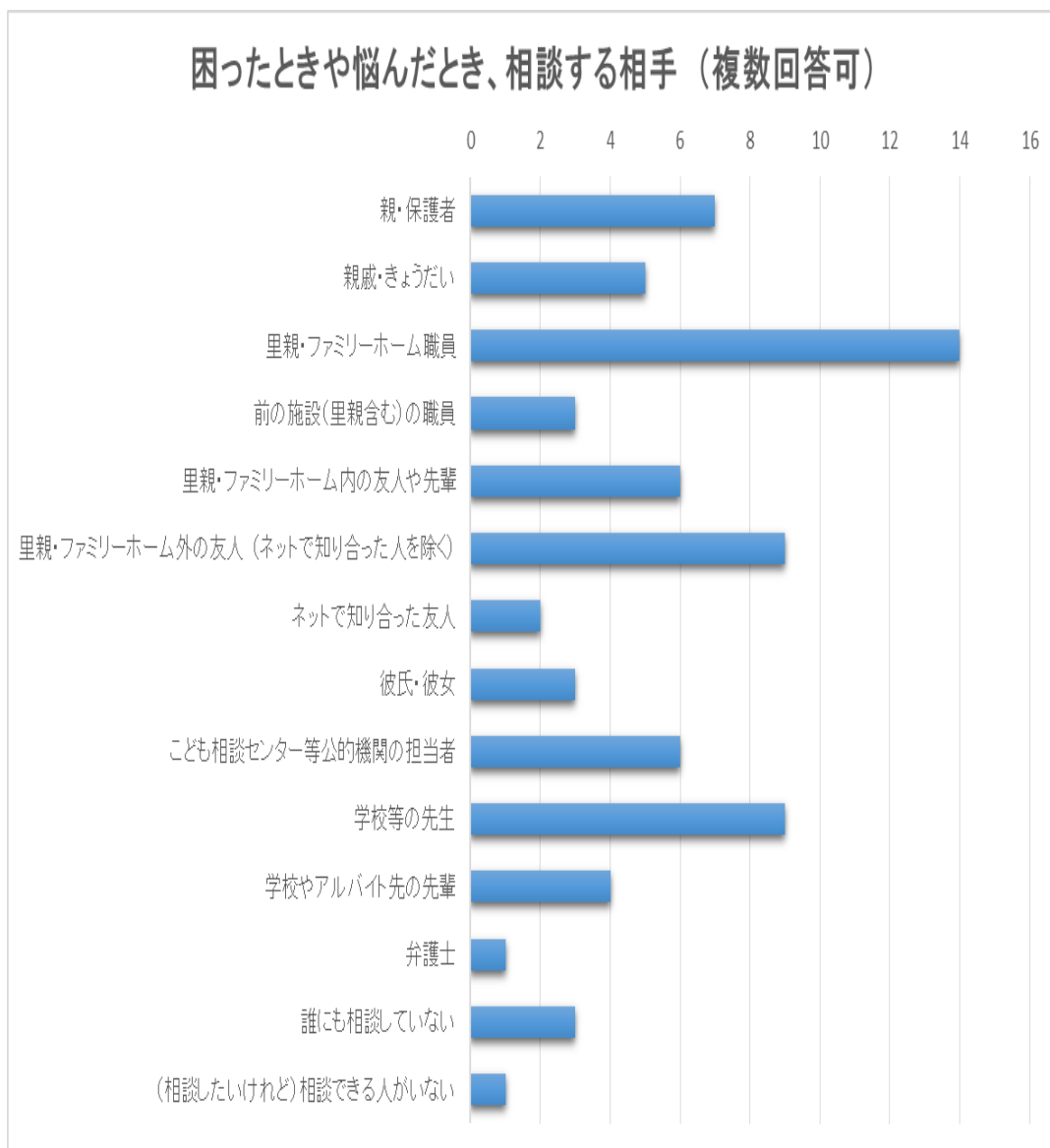
「特に困ったことはない」との回答は12名（14.0%）であり、ほとんどの人が何らかの困難を感じながら生活していることが示唆された。



⑤ 困ったときや悩んだとき、相談する相手は誰ですか。

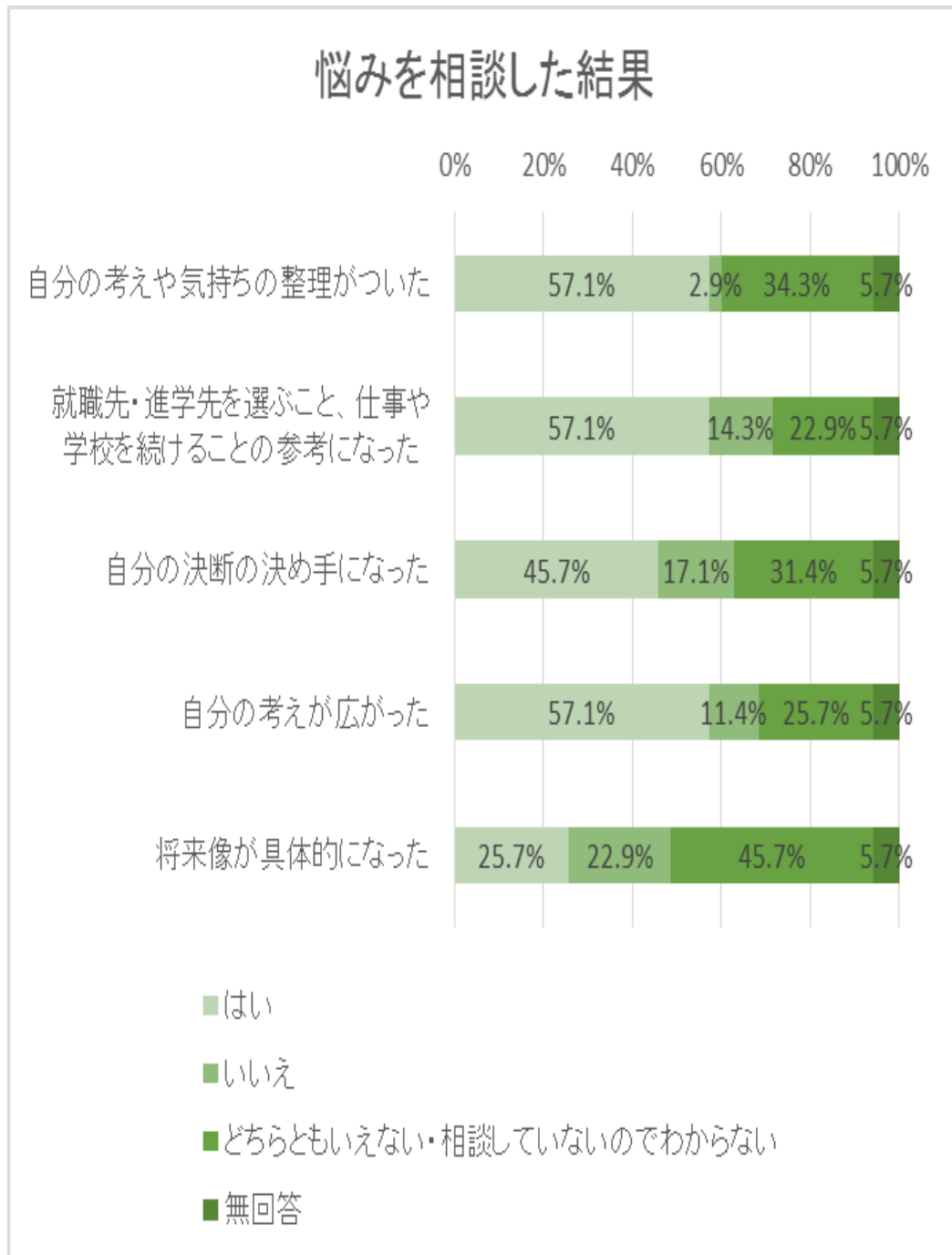
「親・保護者」と「親戚・きょうだい」を合わせると 12 名（16.4%）に対し、「里親・ファミリーホーム職員」と「前の施設（里親含む）の職員」を合わせると 17 名（23.3%）、また、「里親・ファミリーホーム内の友人や先輩」は 6 名（8.2%）であった。

「里親・ファミリーホーム外の友人」「ネットで知り合った友人」「彼氏・彼女」「学校やアルバイト先の先輩」など、居宅外の友人・知人や恋人へ相談している方はあわせて 18 名（24.7%）であった。



⑥ 悩みを相談した結果についてお答えください。

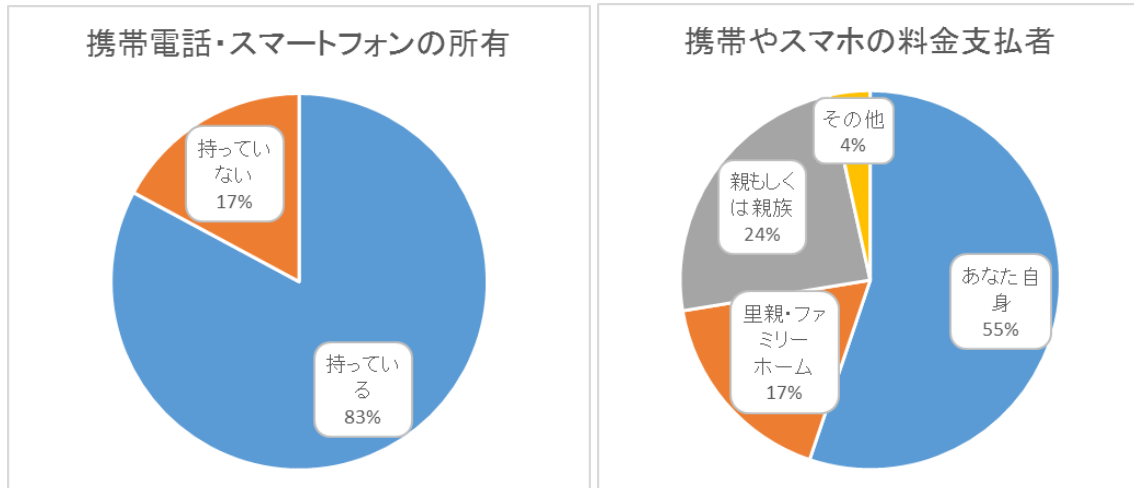
悩みを相談した結果については、肯定的な回答が多かったが、一方で「将来像が具体的になった」については、「どちらともいえない・相談していないのでわからない」が最も多い結果となり、将来への漠然とした不安を抱えながら生活している回答者が多いことがうかがえた。



⑦ 携帯電話・スマートフォンを持っていますか。

携帯電話・スマートフォンを持っていると回答したものは 29 名と 8 割を超え、そのうち 16 名（55.2%）が、自分自身で料金を支払っていた。

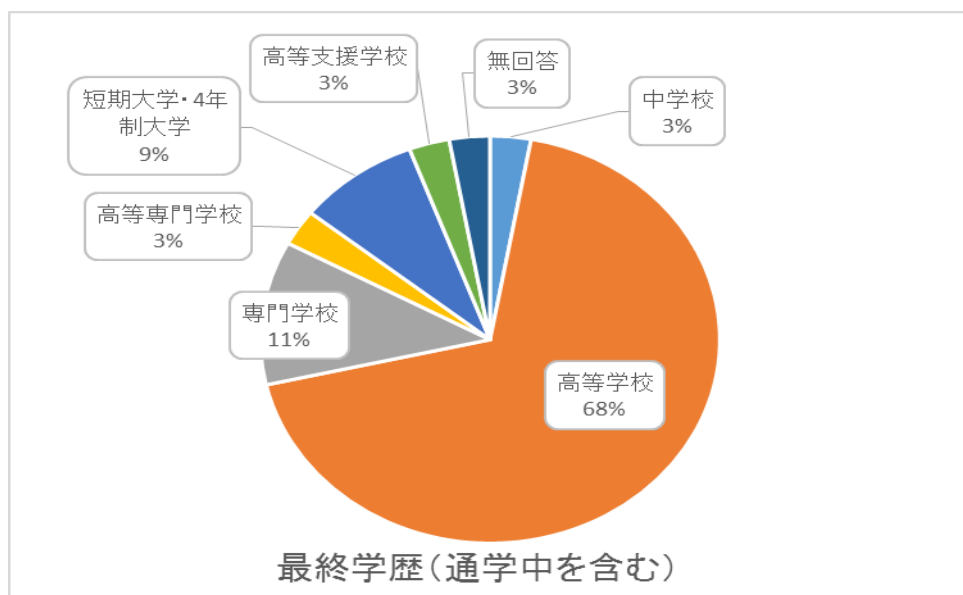
その他は自分自身と親との折半というものであった。



Ⅲ 学校について

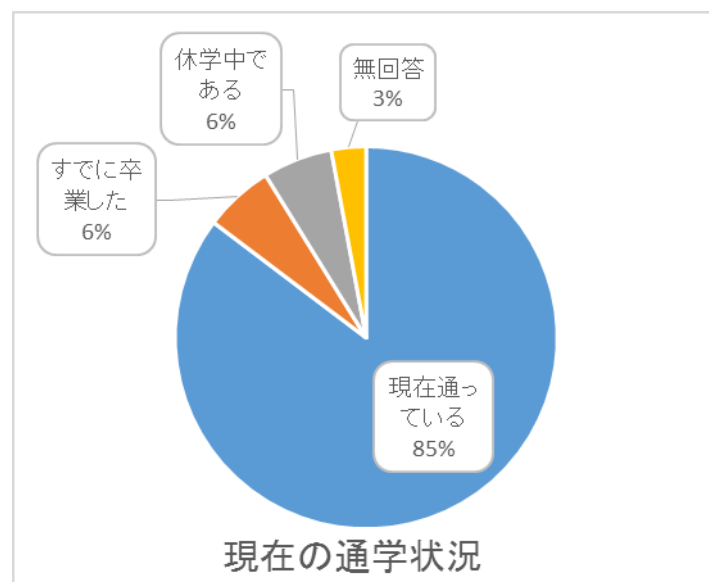
⑧ -1 あなたが最後に通っていたもしくは現在通っている（休学中を含む）学校はどれですか。

回答者数 35 名のうち、最も多かったのは「高等学校」24 名 68.6%であった。



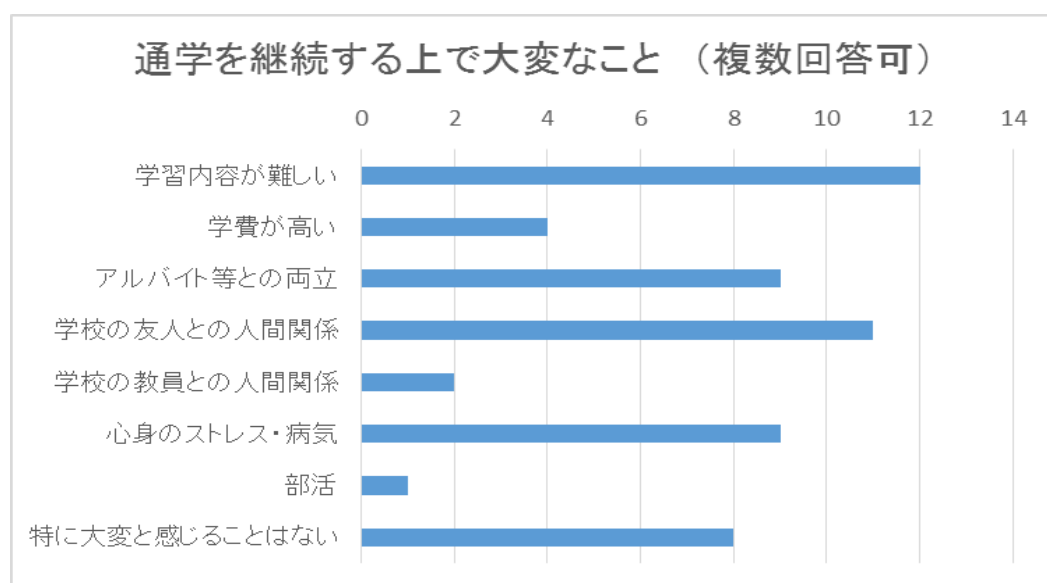
⑧-2 ⑧-1の学校に現在通っていますか。

8-1 で回答した 34 名の学校への通学状況としては、「現在通っている」が 29 名 85.3%であった。



⑨ 学校を続けるうえで大変だと感じることをお答えください。

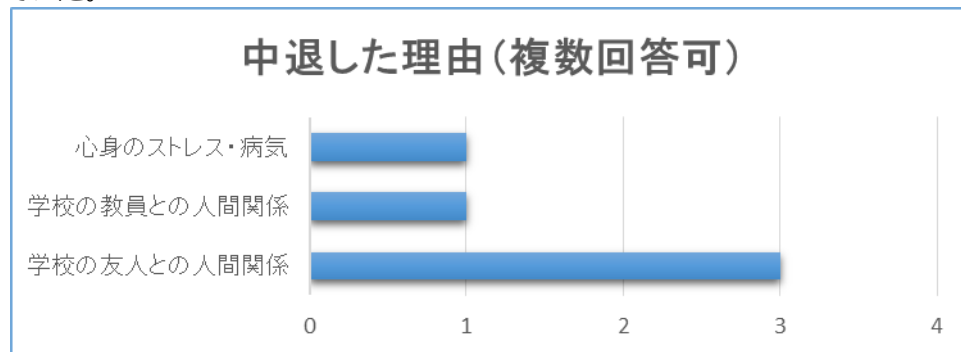
最も多かったのは「学習内容が難しい」12 名 21.4%であった。次いで「学校の友人との人間関係」19.6%、「アルバイト等との両立」と「心身のストレス・病気」がともに 16.1%であった。



⑩-1、⑩-2 中途退学した学校とその理由についてお答えください。

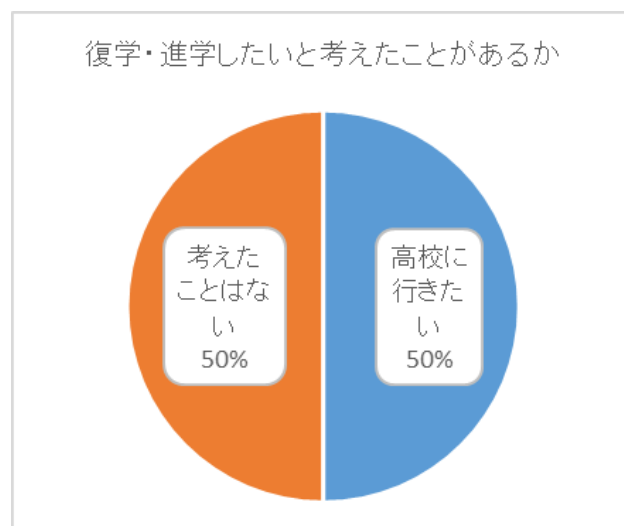
中途退学したとの回答は4名で、中途退学した学校は2名が高等学校、2名は無記入だった。

中退した理由は、「学校の友人との人間関係」「学校の教員との人間関係」「心身のストレス・病気」の記入があり、3人が「学校の友人との人間関係」を挙げていた。



⑪ 学校に通っていない方にお尋ねします。機会があれば再度進学したい、あるいは進学しなおしたいと考えることがありますか。

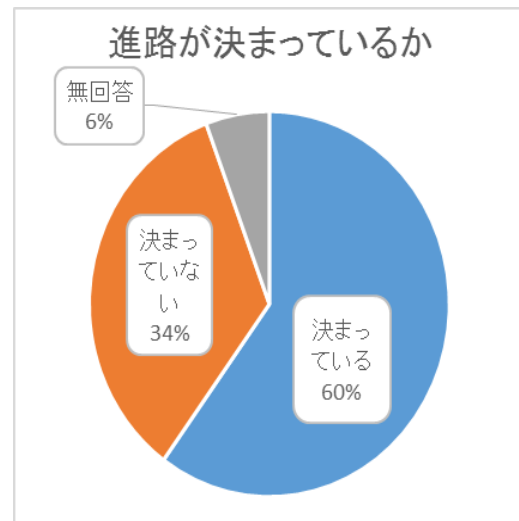
機会があれば復学・進学したいと考えることがあるものは、全体(4名)の半分であった。



Ⅳ 現在、または将来について

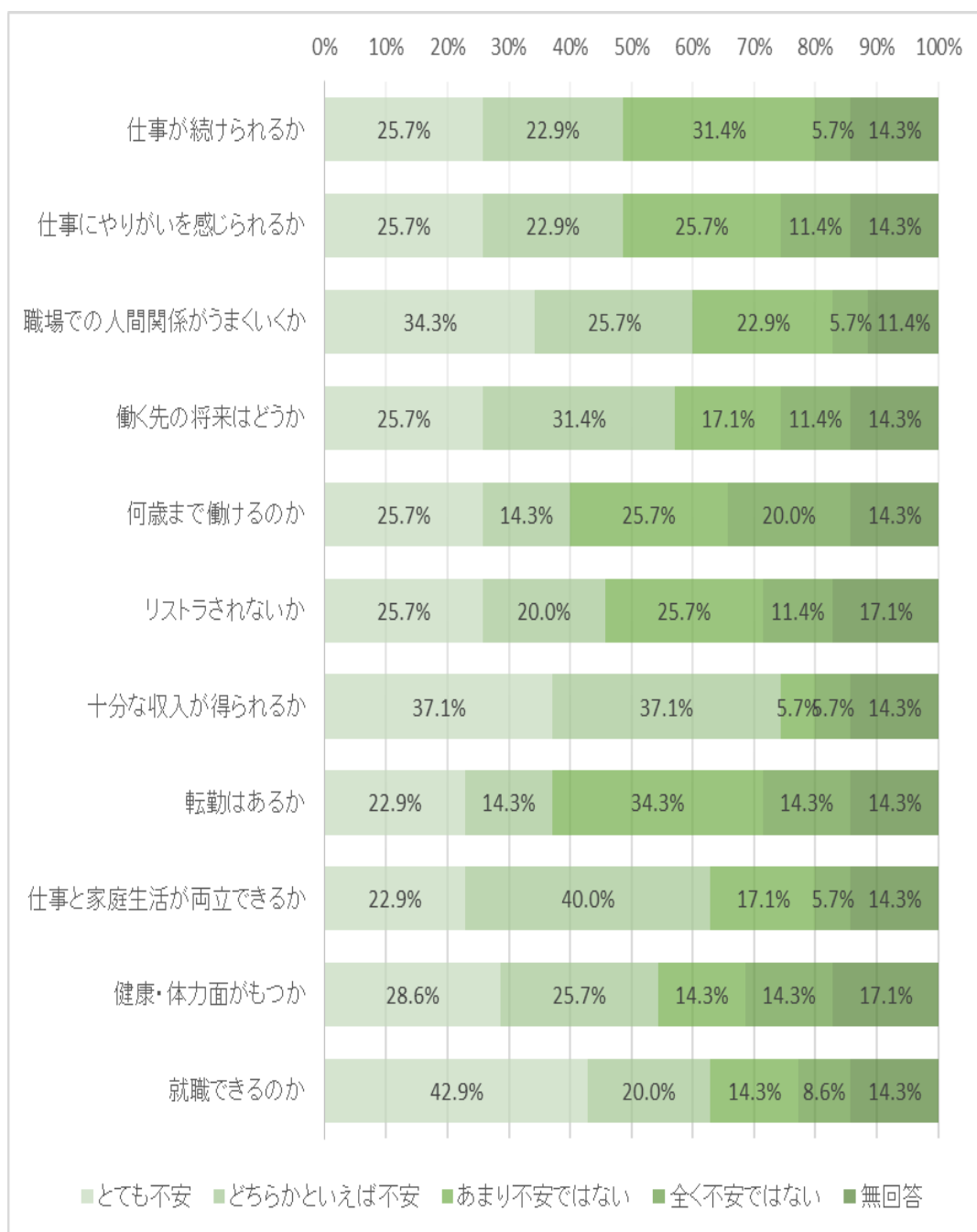
- ⑫ これからの進路について、ある程度決まっている、もしくは、決まった希望がありますか。

これからの進路について、ある程度決まっている、もしくは、決まった希望があると答えたものは21名（60%）、決まっていないと答えたものは12名（34.3%）であった。



⑬ 働くことに関して、現在、または将来不安に感じることはありますか。

全般的に「とても不安」と「どちらかといえば不安」を合わせると半数近くとなる結果であったが、中でも「十分な収入が得られるか」と「職場での人間関係がうまくいくか」、「仕事と家庭生活が両立できるか」、「就職できるのか」といった項目については、「とても不安」と「どちらかといえば不安」を合わせると 6 割を超える結果となった。

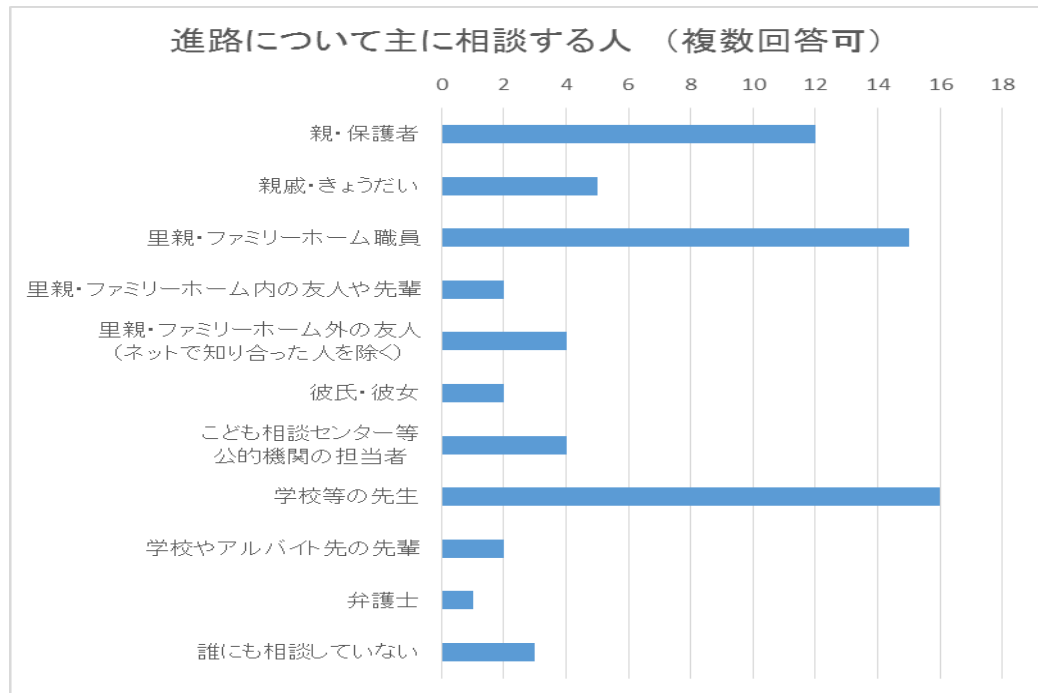


V 退所に向けた進路決定について

⑭ 進路について主に相談する人は誰ですか。

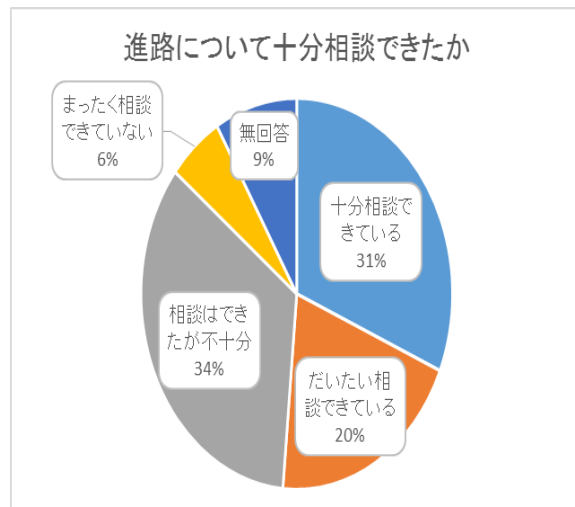
最も多かったのは「学校等の先生」で 16 名（45.7%）と半数近くであった。次いで「里親・ファミリーホーム職員」15 名（42.9%）、「親・保護者」12 名（34.3%）であった。

一方「誰にも相談していない」が 3 名（8.6%）であった。



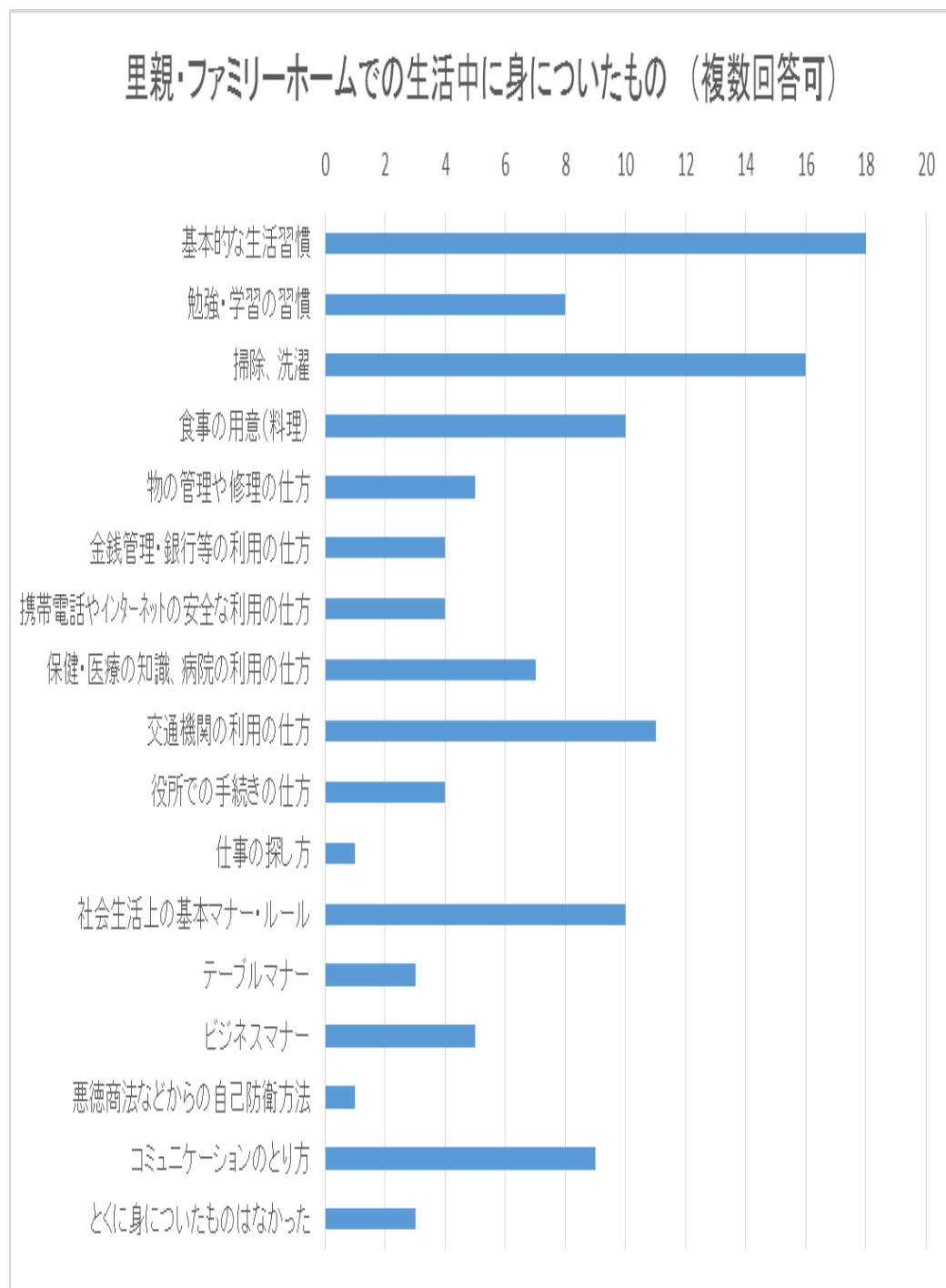
⑮ ⑭の人に十分相談できていますか。

「十分相談できている」31.4%、「だいたい相談できている」20.0%で、約半数が「相談できている」と受け止めていることがわかったが、「相談はできたが不十分」と「まったく相談できていない」を合わせると約 4 割が「相談できていない」と受け止めていることがわかった。



⑯ 里親・ファミリーホームでの生活中に身についたと思うものについてお答えください。

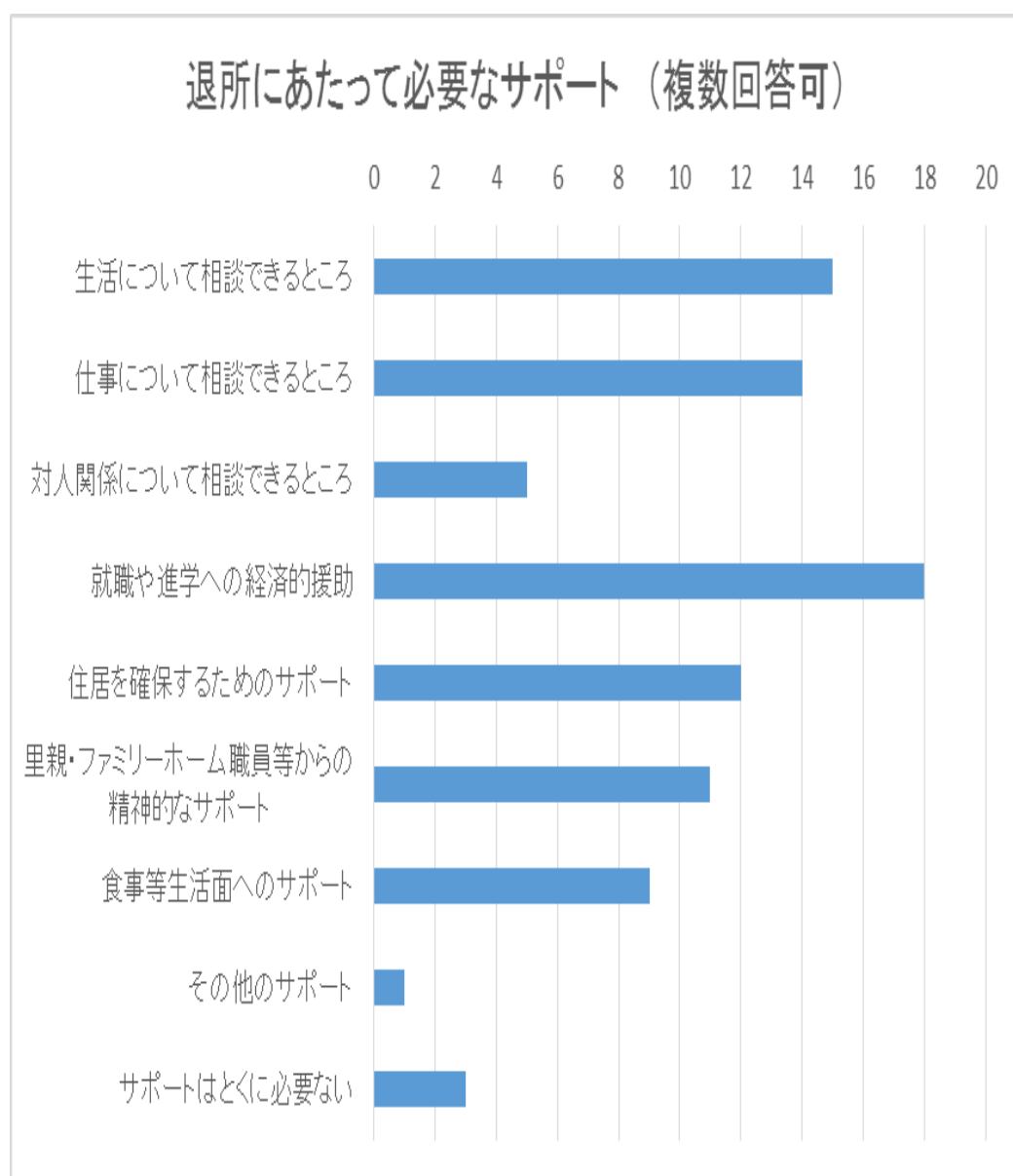
最も多かったのは「基本的な生活習慣」で 18 名（51.4%）であった。次いで「掃除・洗濯」16 名（45.7%）、「交通機関の利用の仕方」11 名（31.4%）であった。



Ⅵ 退所にあたって

⑰ 退所にあたって必要と思われるサポートについてお答えください。

最も多かったのは「就職や進学への経済的援助」で 18 名（51.4%）と半数超であった。次いで「生活について相談できるところ」15 名（42.9%）、「仕事について相談できるところ」14 名（40.0%）であった。全体を通して、何か困ったことがあった時の相談支援ニーズが高いことがうかがえる。



生活アンケート（令和元年11月1日時点でお答えください）

I あなたについて

- ① あなたの年齢をお答えください。

_____ 歳

- ② 里親・ファミリーホームでの生活期間についてわかる範囲でお答えください。

・現在生活している里親・ファミリーホームでの生活期間をお答えください。	_____ 年
・ほかの施設（里親含む）にも入所していた場合、その期間も合わせると何年ですか？	_____ 年

II 現在の生活について

- ③ 今の生活に満足していますか。（○は一つ）

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
・満足しているか	1	2	3	4	5

- ④ 現在困っていることについてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

1 生活全般の不安	9 学校の人間関係に関する事
2 将来のこと	10 勉強に関する事
3 食事の用意（料理）に関する事	11 学校の費用に関する事
4 経済的な問題に関する事	12 友人関係について
5 心や体の健康のこと	13 恋愛（彼氏・彼女）について
6 家族、親族のこと	14 孤立していることや孤独なことについて
7 里親・ファミリーホーム職員との関係	15 とくに困っていることはない
8 就職（職探し）のこと	

- ⑤ 困ったときや悩んだとき、相談する相手は誰ですか。（あてはまるものすべてに○）

1 親・保護者	10 学校等の先生
2 親戚・きょうだい	11 学校やアルバイト先の先輩
3 里親・ファミリーホーム職員	12 医師
4 前の施設（里親含む）の職員	13 弁護士
5 里親・ファミリーホーム内の友人や先輩	14 アフターケア事業部
6 里親・ファミリーホーム外の友人 （ネットで知り合った人を除く）	15 施設・里親で育った経験のある当事者の団体 （CVV 等）
7 ネットで知り合った友人	16 その他（ ）
8 彼氏・彼女	17 誰にも相談していない
9 こども相談センター等公的機関の担当者	18 （相談したいけれど）相談できる人がいない

⑥ 悩みを相談した結果についてお答えください。（○は各項目につき一つ）

	はい	いいえ	どちらともいえない・ 相談していないので わからない
・自分の考えや気持ちの整理がついた	1	2	3
・就職先・進学先を選ぶこと、仕事や学校を 続けることの参考になった . . .	1	2	3
・自分の決断の決め手になった	1	2	3
・自分の考えが広がった	1	2	3
・将来像が具体的にになった	1	2	3
その他			

⑦ 携帯電話・スマートフォンを持っていますか。（あてはまるものすべてに○）

1 持っている	2 持っていない
	
「1 持っている」場合、使用料は誰が支払っていますか。	
1 あなた自身	3 親もしくは親族
2 里親・ファミリーホーム	4 その他（ ）

Ⅲ 学校について

⑧－１ あなたが最後に通っていたもしくは現在通っている（休学中を含む）学校はどれですか。（○は一つ）

1 中学校	4 高等専門学校
2 高等学校	5 短期大学・4年制大学
3 専門学校	6 その他（ ）

⑧－２ ⑧－１の学校に現在通っていますか。（○は一つ）

1 現在通っている	3 中途退学した
2 すでに卒業した	4 休学中である

⑨ 学校を続けるうえで大変だと感じることをお答えください。（あてはまるものすべてに○）

1 学習内容が難しい	5 学校の教員との人間関係
2 学費が高い	6 心身のストレス・病気
3 アルバイト等との両立	7 その他（ ）
4 学校の友人との人間関係	8 特に大変と感じることはない

⑩－１、⑩－２は中途退学したことがある方にお尋ねします。

⑩－１ 中途退学した学校についてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

1 高等学校	4 短期大学・4年制大学
2 専門学校	5 その他（ ）
3 高等専門学校	

⑩－２ 中途退学した理由についてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

1 学習の内容やレベルが合わなかった	5 学校の教員との人間関係
2 学費等教育費の負担が大きかった	6 心身のストレス・病気
3 アルバイト等との両立ができなかった	7 他にやりたい仕事・学業等があった
4 学校の友人との人間関係	8 その他（ ）

- ⑪ 学校に通っていない方にお尋ねします。機会があれば再度進学したい、あるいは進学しなおしたいと考えたことがありますか。（○は一つ）

- | | |
|-------------------------------------|------------|
| 1 高校に行きたい・行きなおしたいと考えたことがある | 3 考えたことはない |
| 2 専門学校、高等専門学校に行きたい・行きなおしたいと考えたことがある | |

IV 現在、または将来について

- ⑫ これからの進路について、ある程度決まっている、もしくは、決まった希望がありますか。（○は一つ）

- | | | |
|--------------------------------|--------|---------|
| | 決まっている | 決まっていない |
| ・進路が決まっているか （希望があるか） | 1 | 2 |

- ⑬ 働くことに関して、現在、または将来不安に感じることはありますか。（○は各項目につき一つ）

	とても不安	どちらかといえば不安	あまり不安ではない	全く不安ではない
・仕事が続けられるか	1	2	3	4
・仕事にやりがいを感じられるか	1	2	3	4
・職場での人間関係がうまくいくか	1	2	3	4
・働く先の将来はどうか	1	2	3	4
・何歳まで働けるのか	1	2	3	4
・リストラされないか	1	2	3	4
・十分な収入が得られるか	1	2	3	4
・転勤はあるか	1	2	3	4
・仕事と家庭生活が両立できるか	1	2	3	4
・健康・体力面がもつか	1	2	3	4
・就職できるのか	1	2	3	4

V 退所に向けた進路決定について

- ⑭ 進路について主に相談する人は誰ですか。

- | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|
| 1 親・保護者 | 10 学校等の先生 |
| 2 親戚・きょうだい | 11 学校やアルバイト先の先輩 |
| 3 里親・ファミリーホーム職員 | 12 医師 |
| 4 前の施設（里親含む）の職員 | 13 弁護士 |
| 5 里親・ファミリーホーム内の友人や先輩 | 14 アフターケア事業部 |
| 6 里親・ファミリーホーム外の友人
（ネットで知り合った人を除く） | 15 施設・里親で育った経験のある当事者の団体
（CVV 等） |
| 7 ネットで知り合った友人 | 16 その他（ ） |
| 8 彼氏・彼女 | 17 誰にも相談していない |
| 9 こども相談センター等公的機関の担当者 | 18 （相談したいけれど）相談できる人がいない |

⑮ ⑭の人に十分相談できていますか。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 十分相談できている | 3 相談はできたが不十分 |
| 2 だいたい相談できている | 4 まったく相談できていない |

⑯ 里親・ファミリーホームでの生活中に身についたと思うものについてお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1 基本的な生活習慣 | 10 役所での手続きの仕方 |
| 2 勉強・学習の習慣 | 11 仕事の探し方 |
| 3 掃除、洗濯 | 12 社会生活上の基本マナー・ルール |
| 4 食事の用意(料理) | 13 テーブルマナー |
| 5 物の管理や修理の仕方 | 14 ビジネスマナー |
| 6 金銭管理・銀行等の利用の仕方 | 15 悪徳商法などからの自己防衛方法 |
| 7 携帯電話やインターネットの安全な利用の仕方 | 16 コミュニケーションのとり方 |
| 8 保健・医療の知識、病院の利用の仕方 | 17 その他() |
| 9 交通機関の利用の仕方 | 18 とくに身についたものはなかった |

Ⅵ 退所にあたって

⑰ 里親・ファミリーホームからの退所にあたって必要と思われるサポートについてお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|-----------------------------|
| 1 生活について相談できる場所 | 6 里親・ファミリーホーム職員等からの精神的なサポート |
| 2 仕事について相談できる場所 | 7 食事等生活面へのサポート |
| 3 対人関係について相談できる場所 | 8 その他のサポート |
| 4 就職や進学への経済的援助 | 9 サポートはとくに必要ない |
| 5 住居を確保するためのサポート | |

用語集 （この計画における意味を記載しています）

用語	意味
(あ行)	
アドボガシー	こどもの最善の利益のために、独立性をもつ第三者がこどもの声を聞き取るなど、意見表明を支援し、児童相談所などの関係機関に伝える「代弁者制度」のこと。
アフター・ケア	代替養育を必要とするこどもへの施設退所後または里親等からの委託解除後に行われる支援のこと。
一時保護	児童相談所長または都道府県知事が必要と認めた場合に、こどもを一時保護施設などに短期間入所させること。一時保護は、こどもの安全の迅速な確保、適切な保護を行い、こどもの心身の状況、置かれている環境などの状況を把握するため、また、虐待を受けたこども等の最善の利益を守るために行われるものである。
イン・ケア	代替養育を必要とするこどもへの施設入所中または里親等へ委託されている間の自立に向けた支援のこと。
エンゼルサポーター事業	出産後すぐの母親及び乳児を介助する者がいないために、家事・育児が困難になっている家庭に大阪市よりエンゼルサポーターを派遣し、子育て家庭への家事援助を実施する事業。

用語	意味
(か行) 家庭養育優先原則	こどもが家庭において健やかに養育されるよう、保護者を支援することを原則とした上で、家庭における養育が困難又は適当でない場合には、養子縁組や代替養育のうち「家庭における養育環境と同様の養育環境」である里親等への委託を進めていくことを示した原則のこと。
(さ行) 児童福祉司	児童相談所に置かれる職員で、児童の保護その他児童の福祉に関する事項について相談に応じ、専門的技術に基づいて必要な指導を行う職員。ケースワーカーと呼ばれる。
社会的養護	保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うこと。なお、保護者と子どもの分離が必要な事情があり、分離した後の代替養育を公的に保障しサービスを提供する場合は措置・契約の形態如何に関わらず、社会的養護に含める。具体的には、在宅指導措置、里親・施設等への措置、一時保護の児童相談所の行政処分はもとより、自立援助ホームや保護者と施設の契約で入所している障害児施設やショートステイも社会的養護に含めるとされている。
小規模グループケア	本体施設の養育単位を小規模なユニット単位とすることで、家庭的な養育を行うこと。 本体施設内ではなく、本体施設の近くに独立したユニットを設けた場合は、分園型小規模グループケアという。

用語	意味
スーパービジョン	職員の専門性の向上を目指し、業務上のアドバイスを行う人（スーパーバイザー）が、アドバイスを受ける人（スーパーバイジー）に対して定期的に適切な指導をしていくこと。
（な行） ネグレクト	養育すべき者が食事や衣服等の世話を怠り、放置すること。育児放棄。
（は行） パーマネンシー保障	要保護児童に永続的な人間関係や生活の場を保障すること。
ファミリーホーム （小規模住居型児童養育事業）	専任の養育者の住居で、要保護児童5人ないし6人を受け入れ、一定期間養育をする事業のこと。養育里親の経験など一定の要件を満たす養育者3人以上で養育にあたる。
フォスタリング業務	リクルート（里親希望者の開拓）及びアセスメント（評価）、登録前、登録後及び委託後における里親に対する研修、こどもと里親家庭のマッチング、里親養育への支援（未委託期間中及び委託解除後のフォローを含む。）などの一連の業務のこと。
（や行） 要保護児童	保護者の無い児童又は保護者に監護させることが不適当であると認められる児童のこと。

用語	意味
要保護児童対策地域協議会	地方公共団体が設置する、要保護児童の適切な保護又は要支援児童若しくは出産前から支援を行うことが特に必要である妊婦への適切な支援を図るために必要な情報の交換を行うとともに、要保護児童等に対する支援の内容に関する協議会のこと。
(ら行) リービング・ケア	代替養育を必要とするこどもへの施設退所前または里親等からの委託解除前に行われる自立に向けた支援のこと。
レスパイト	一時的中断、延期、小休止などを意味する英語で、一時的な休息のための援助のこと。